

五観中だより

広島市立五日市観音中学校『学校通信』平成23年度 第14号
(新年号)平成24年1月6日 発行

【正門前「校訓」碑】



「辰年」・・・必要な準備を整え「登龍門」を乗り越えろ

古代中国の『漢書』律曆志によると、「辰」は「振」(しん=「ふるう」「ととのう」)の意味で、草木の形が整った状態を表しているとされています。後に、覚えやすくするために神話上の動物である「龍」が割り当てられたということです。

また古く中国に、黄河上流にある龍門山を切り開いてできた急流「龍門」を登りきった「鯉」がいたならば、「龍」になるという言い伝えがありました。そこから「登龍門」という言葉が生まれたと言われます。「登龍門」とは、成功

へと至るために乗り越えなければならぬ難しい関門あるいはその糸口のことをさし、「鯉の滝登り」とも言われ、「鯉職(こいのぼり)」の風習の元となっています。

さて、年頭にあたり、自分自身で、あるいは親や先生などに尋ねられて「この一年の抱負」を思い描いたことでしょう。

昨年、みなさんにはそれぞれ課題が残ったはずですが、楽な目標を立てるのではなく、自分に厳しく課題の克服・改善に向けた目標を掲げ、それをやり遂げ、乗り越えて、一回り大きく成長してもらいたいと思います。そして、そうするためには、何をどのように整えていくべきか、改めて去年までの自分を見つめ直してみましょう。

「登龍門」を登りきった者には、将来の躍進が約束されると言います。そして、「登龍門」は人生に何度も待ちかまえています。若いうちに、苦しいことから逃げずに立ち向かう精神力をしっかりと養ってほしいと思います。立派な龍や華やかな錦鯉まででなくてもいいですから、がんばれ五観中生！

ところで、正月ということで、学校宛で何通か担任の先生に年賀状が届いていました。心のこもったあいさつや、すがすがしい決意が書かれていました。みなさんは、年賀状をだれに何枚くらい書い

新年明けましておめでとうございます。

生徒の皆さん 去年までの自分のどこをどう整えていくかを考え 今年一年で ぜひ、文字どおりワンステップ成長を遂げてください。

保護者および地域の皆様 昨年中は 本校の教育活動推進のために 多大なるご支援とご協力を賜りました。厚く御礼を申し上げます。お陰様で 学校と家庭・地域が連携を強めることができ、学校の雰囲気も随分良くなってきたとの評価もいただきました。

しかし 学校にも生徒個々にもまだまだ課題はあります。生徒たちが社会に出ても恥ずかしくない生き方ができるようにするには 義務教育課程の間に これらの課題と真摯に向き合い 改善の努力をしていかなければなりません。

本年も引き続き 全教職員一丸となって 課題改善に向けた教育活動に励んでいく所存です。皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。授業参観や行事などの機会には、ぜひ 学校へお越しください。ご意見やご感想をお聴かせ願えればと思います。(来週十三日)金に参観があります。

平成二十四年一月六日 広島市立五日市観音中学校 教職員一同



たでしょうか。右の投稿文にもありますが、やはり、手紙(特に自筆のもの)からは、何か伝わってくるものがあります。今時ですから、パソコンなどで一生懸命絵や写真や文字をレイアウトしてオリジナルのものを作ったなどと思える手紙にも、心が暖まります。

昨年10月～11月にかけて、ノー電子メディア推進事業という取り組みがあり、本校でも45家族が参加されました。人の考えや思いを直接聞くとか、自分の考えや気持ちを相手に直接伝えるといった当たり前のような人間どうしのつながりを時代が変わっても大切にしていきたいものです。年賀状も正月ならではですが、新年を迎える風習は他にもたくさんあります。

今、職員玄関に飾ってある紅白の鉢に入った飾りを何と言うか知っていますか。

「門松(かどまつ)」と言います。正月に家の門の前などに立てられる一對の松や竹の飾りです。古くは、木のこずえに神が宿ると考えられていたことから、門松には、年神を家に迎え入れるという意味合いがあるそうです。玄関先を清め、悪い鬼や邪気などが家の中に入らぬよう、新年の神様をお招きするのです。

実は、新年を新たな気持ちで迎えるために、野球部・卓球部・家庭科部・生徒会美化委員長の面々が、教室や各階トイレ・玄関・多目的ホール・整美倉庫などを年末最後の部活動日に、きれいに整えてくれました。卓球部は、年明けに改めて1階を雑巾がけしてくれました。きれいになってとても気持ちよかったです、頑張ってくれている姿を見る方が、もっと気持ちよかったです。

最後に、右の記事をよく読んでください。「辰年」は成功に向け「整える年」、今あなたが、整えるべきことは何ですか。アドバイスや忠告を素直に受け止め、自己改革・改善を図ってください。



読み取る力 低下 心配・・・

現代社会では、日常生活の中にたくさんのメディアがある。技術の発達とともに、携帯電話やインターネット、さまざまな機能を持つスマートフォンなどの新しいメディアも出てきている。

新しいメディアが普及する半面、ラジオや新聞、本など言葉を読み取るメディアを利用する機会が減っている。そのため、言葉や文を理解する力が低下してしまうのではないかと心配になる。

最近は、相手へ連絡する時にメールで済ませることが多い。それに連れて、思いを込めて書く手紙や、お互いの声を聞く電話の利用が少なくなっている。私も、小学校の時の友達と文通をしている。メールだとわずかな時間で用が済むが、手紙だといろいろ考えるし、自分の字で思いを伝えられる返事を待つのも楽しい。

新しいメディアが普及して便利になるのはいいが、それに頼りすぎず、昔ながらのメディアも大切にしていくなさと思う。

『中国新聞』投稿欄
「ヤングスポット」より

責任ある指導と素直な心

現役プロ野球選手が高校球児に技術指導などをするシンポジウム『夢の向こうに』が9年目を迎え、47都道府県を一巡した。

高校生は何かを吸収しようと目を輝かせ、プロも慣れない指導に戸惑いつつ何かを伝えたいと汗をかく。

12月17日の東京会場で、日本プロ野球選手会の松原事務局長は、初年度の出来事を思い出していた。関東の会場は、この日と同じ明治神宮会館。佐伯貴弘選手(当時横浜ベイスターズ)が、打撃に関する質問を受けた。

佐伯選手はまず、その高校生の服装の乱れを注意した。「ぼくは格好いいとは思わない。社会では通用しない。」と。その生徒は、すぐに服装を正した。

翌シーズン、佐伯選手は自己最高の打率3割2分2厘をマークした。「ぼくはあの生徒に恥をかかせた。いい加減なプレーをするわけにはいかない。」と、例年以上に身なりにも注意し、臨んだシーズンだったという。・・・以下 省略

～平成23年12月27日発行『朝日新聞』

「自由自在」より一部抜粋～

STOPいじめ！ START友の輪！

12月27日、広島市内の小中学生が、いじめ防止を呼びかける「STOPいじめ！サミット」が開かれました。実行委員会メンバーが寸劇などで問題提起をし、次の『五つの言葉』を「いじめ防止アピール」として採択しました。

1. いじめられている「あなた」へ『語ろう』...一人を抱え込むには、その苦しみは重すぎます。一人で抱え込まず、誰かに語りましょう。あなたの声は必ず誰かに届きます。
2. いじめている「あなた」へ『触れよう』...「あなた」が与えている苦しみは、相手にとって、「あなた」が思っている以上に辛いものかもしれません。もしかして、命の危険すらあるかもしれません。その苦しき・辛さに触れる勇氣を持ってください。いじめることで「あなた」が得たものが、あなたにとって本当に自慢できる大切なものになるのでしょうか。考えてください。
3. いじめを見ている「あなた」へ『聴こう』...助けを求める声に答えましょう。聞こえてくる声だけでなく、聞こえてこない声もあるかもしれません。助けを求める声を聞き、応えようとする姿勢は、きっと誰かの救いになります。
4. いじめと自分は関係ないと思っている「あなた」へ『感じよう』...いじめの現場を見なくても、声を聴かなくても、そこにいじめを感じることはできます。自分が誰かをいじめてなくても、誰からもいじめられてなくても、自分の周りにいじめがあることを感じ、行動のきっかけとすることができるのです。
5. 全ての立場になる可能性を持つ「私たち」へ『見つめよう』...私

たちは、自分以外の人について、自分が知っている情報だけで判断し、理解できない言葉や行動を「必要のない変な言葉や行動」と思い込み、いじめへと行動を加速化させている可能性があります。

※「いじめ撲滅」に向け、今後この「アピール」を実践していくために、五観中学生会でも準備中！

STOPいじめサミット
キャッチフレーズ部門
最優秀賞
1-1 縣詰さんの作品

いじめなくし平和に

いじめとは何だろう。どこからがいじめなんだろう。私は、された側の人がいじめだと感じたら、それはもういじめだと思ふ。

私の弟は昨年いじめにあった。内容はよく知らないが弟がいじめられたと思った瞬間から、相手の意思に関係なくいじめになる。この問題は話し合いで解決した。

この社会には、多くのいじめがある。いじめの原因は、本当につまらないことだと思ふ。つまらないことや軽い気持ちから始まったいじめが、人の心を傷つけてこわし命さえも奪うかもしれない。いじめが、弟の時のように解決すればいいが、大半は解決しないままだ。だから、この社会からいじめがなくなった時こそが、本当の平和だと私は思ふ。

みんなは、「戦争がない」「核兵器がない」のが平和だと言う。確かにそうだが、それだけだとだめだと思ふ。平和の根本は、いじめのない社会だと考えるからだ。
(三次市在住 中学生女子)

『中国新聞』投稿欄
「ヤングスポット」より

いじめは最低だ！

いじめは一切なくすべきだ。いじめは、人に精神的ダメージを与えるとても最低な行為で、周りの人にも迷惑をかけるからだ。

例えば、いじめをしている生徒がいるクラスの先生が、その生徒を注意する。でも、いじめをやめない。いじめられている生徒は、学校に来たくないなどとストレスもたまり、精神的につらくなる。いじめる生徒は、自分がそんな卑劣な行為をしているとは思っていないから、またやってしまう。結局、ずっと悪循環が続く。

いじめを見て見ぬふりをする生徒は、もっと悪い。いじめで苦しんでいる生徒がいたら、その人をかばってあげたり、いじめをしている生徒を注意したりするなど、対処法はたくさんあるはずだ。

人は平等なのだから、差別するような行為はやめてほしい。日本中の学校からいじめがなくなるよう心から願っている。
(三次市在住 中学生男子)

声かけは 人を助ける 明るい灯

社会を明るくする運動
標語コンテスト
広島県知事賞
3-3 内田さんの作品
(12月26日に表彰式)



応募先は違っ
たけど、内田さ
んのこの作品も
「いじめ防止」
を呼びかけるの
にも最適だ！
まさに、社会を
明るくするね。

メインキャラクターに決まった
左の作品は、平野さんの作品をふ
くめ、最優秀賞に輝いた下の3名
の作品のデザインや思いを合体さ
せたものだそうです。

【平野さんが作品にこめていた思い】
いじめられている子がいたら、すぐ
飛んできてくれるヒーロー。右手には
「仲」、左手には「間」、それを合わせ
たら「仲間」になります。胸には、「幸
せ」の象徴となっている「四つ葉のク
ローバー」を描きました。

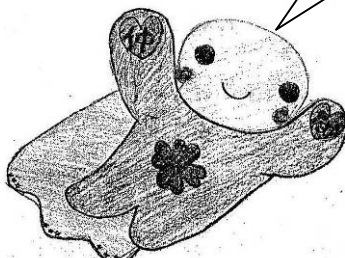
STOPいじめ サミット
～ “Threeピース” を目指して～
メインキャラクター

ちえんじMAN

STOPいじめサミット キャラクター部門
最優秀賞 1-2 平野さんの作品

【キャラクター部門 受賞作品】

最優秀賞



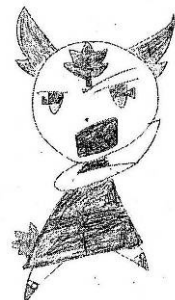
「幸 (こう) ちゃん」

五日市観音中学校1年 平野 花奈 さん



「チェンジくん」

城山北中学校2年 安宗 日菜子 さん



「モジMAN」

真亀小学校5年 佐古田 菜摘 さん